

やまなし未来会議 会議録 (平成27年度第2回会議)

日 時 平成27年9月2日(水) 午後2時～3時45分

場 所 山梨県庁別館3階「正庁」

出席者

・ 委員(50音順)

飯野委員、牛奥委員、加藤委員、木田委員、笹本委員、進藤委員、角南委員、谷口委員、中込委員、萩原委員、廣瀬委員、渡辺委員

・ 県 側

後藤知事(議長)、新井副知事、矢島公営企業管理者、阿部教育長、松谷知事政策局長、佐藤リニア交通局長、前総務部長、堀内防災危機管理監、吉原福祉保健部長、一瀬森林環境部長、江里口林務長、赤池エネルギー局長、平井産業労働部長、茂手木観光部長、橘田農政部長、中嶋県土整備部理事、布施企画県民部次長

(事務局：知事政策局) 弦間理事、手塚次長、中澤政策参事、

三井人口問題対策室長、原政策主幹、村松政策主幹、高野政策主幹

会議次第

1. 開会

2. 知事あいさつ

3. 議事

(1) 山梨県まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(案)について

4. 閉会

内 容

1. 開会

司会：松谷知事政策局長

2. 知事あいさつ(要旨)

(後藤知事)

皆さん、こんにちは。大変お忙しい中、また、昨日までは雨も降って若干涼しかったが、今日からまた暑さがぶり返して暑い中、委員の皆様には第2回やまなし未来会議にご出席いただきまして本当にありがとうございます。

この2ヶ月間いろいろな議論をしてきたが、特に3つの報告する出来事があった。

1点目は、議会終了後、初めて県知事として四川省とシンガポールに公式の視察を行った。大きな人口を持つ四川省との友好県省締結30周年の記念行事への参加や意見交換を通じて、100倍近い人口規模の違いはあるが、四川省とわが県が30年の積み重ねをベースにしながら、これから40年、50年、そして100年に向けて、さらに一層連携強化をしようという話もあった。

そのあと、シンガポールに行き、いわゆるトップセールスという形で、今日もワイン業界、農業関係、絹織物関係の委員さん方がご参加いただいているが、ワイン、日

本酒、果樹、そして山梨の観光という形で、これも第1回目の会合の時に私の方からも話をしたように、今山梨にある産業分野において、それぞれがもっと連携強化をしながら、新しい産業の芽が出るのではないかと、また相手の国から見て幅広いサービス、ニーズに基づいたサービスが提供できるのではないかとということで、私なりに山梨の魅力全体を説明しながら、果樹の魅力、ワインの魅力、日本酒の魅力と、いろいろな魅力について話をし、そのニーズを踏まえて国際戦略を組み立てる大切さも自分なりに学んできたつもりである。

2点目として、先週、中央日本4県、山梨と静岡、長野、新潟、いわゆるフォッサマグマの上にある4県の知事が集まる会議があった。地形的な関係でややもすれば今まで日本の真ん中に存在する県ということが喧伝をされていたが、これからは中部横断自動車道が2年半後に開通し、まず静岡と山梨の連携が強化され、さらにはいずれ近い将来に長野県とも中部横断自動車道で連結すると、長野そして新潟まで、まさに日本海から太平洋まで同じ土俵に立つ県として、これからどう相互に影響していくかということで昨年からは始まった会議である。

まず昨年、山岳地帯をそれぞれ有しているという共通性の中で、山のグレーディングをそれぞれ4県で今年の春に公表をし、そして今回は、「災害時の相互応援等に関する協定」を4県で締結した。昨年の大雪の際には中央道が止まり、また中央線が止まり、山梨が何日か孤立せざるを得なかった時に、新潟から重機が運び込まれ、また人的にも応援をいただき、1週間程度で元の形に戻ってきたということ踏まえると、ドクターヘリの広域搬送も含めてきっちりと対応しなければいけないということで、4県知事間で意識を共有したところである。

3点目として、先月共同通信社が行った全国の知事へのアンケート結果を見ても、また4月末に岡山県であった全国知事会に出席してみても、以前お話ししたように、まさに今年が地方創生元年であり、自治体間競争がより激しくなってきたと感じている。ただこれは、競争をすることが本来の目的ではなく、それぞれの地域の持つ魅力やいいものをさらにステージを上げながら、人口減少という日本国全体、また先進国が共有する大きな課題に対して、全国民がそれぞれの地域の中でそれを防ぎ止め、そして地域の経済や暮らしを良くしていこうということである。いろいろな財源の問題や人材育成の問題があるということ、また景気が良くなるとどうしても都市部に人口がまた戻り、地方の中小企業の経営者にとっては人材難というある意味で都市と地方の格差が広まってしまおうような主旨の発言も知事会の中で多々あった。

いずれにしても、国際的な視点を持ちながら、地域の持つ力を最大限に出し切っていくというのが私の強い思いであり、またこのやまなし未来会議の委員を選任する際にもお話しさせていただいたように、その視点を大切にしながら産業間、地域間の連携を図り、そして山梨の優位性、山梨の魅力というものを発信しながら、ご意見をいただくというのがこの会議の主旨だと、私は実は思っている。

そういう意味も込めて、今日は人口ビジョンについて、先だっの議論も踏まえて、後ほど三井人口問題対策室長から報告をさせるが、やはりいろいろな捉え方の中で、新しい山梨が日本の中でも、これから人々が生き生きと暮らし、そして生活をし、さらには経済活動がしやすい地域となる中で、一昨日、いわゆる政府機関の地方移転についても、NEDOという組織と、森林技術総合研修所を山梨に来ていただきたいということで正式にわが県から国に申請、提案をさせていただいた。これもかなり倍率が高いようであるが、山梨には優位性があると、私はこのことをきちっと国の関係者や皆様方にも理解していただけるよう努力することをお誓いし、また、この2ヶ月間の報告をまずしながら、今日の会議が有意義な会議になるよう心から委員の皆様方をお願いをして、冒頭の挨拶とさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願い致します。

3. 議事

議長：後藤知事

(1) 山梨県まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(案)について

議題(1)について、資料により事務局から説明し、次のとおり意見交換を行った。

説明：三井人口問題対策室長

(笹本委員)

リンケージ人口について少しお聞きしたいのだが、山梨県を訪れる旅行者は昨日の新聞報道によると、宿泊客373万人ということで案内があったが、旅行者の消費額を定住人口に換算するとのことだが、この換算はどのような計算方式でやっているのか。

(松谷知事政策局長)

旅行者をリンケージ、繋がりということで、愛着度とか貢献度合というもので割り落とすということも考えている。例えば、旅行者については、非常に山梨ファンということでリピーターであるとか、基本的に日帰りではなくて宿泊をする方を中心とか、そういったことで、山梨県民が一人当たり消費するというか、年間所得というか、そのような総額を割り落として人口換算していくというようなイメージをしている。

(笹本委員)

交流人口としては旅行者、特に外国人も含めてであるが、非常にいいことだと思う。実際の金額的には、多分一昨年では3千ぐらいあったであろうか、ちょっと私の記憶ではそうであるが、この辺の数字ももう少し押さえていただければと思っている。こういう考え方自体は素晴らしいと思う。

(後藤議長)

笹本委員の件については、精査をして報告をお願いしたい。

(廣瀬委員)

今の人口の議論の中では、ふるさと納税という形で納税をしている人も、人口の代わりになっているというか、対象になっているということについては、前から例があるわけであるが、今山梨県でふるさと納税はどのくらいあるのか。金額はともかく、何人ぐらいの人がふるさと納税をしてくれているのか。

(松谷知事政策局長)

すみません。手元に資料がないので、改めて報告する。

(萩原委員)

まず人口の考え方ということで、定住人口とリンケージ人口、私はこの考え方については賛成の立場である。なぜかと言うと、やはり定住人口を増やす、あるいは山梨に来ていただいてそこで楽しんでいただく。これが定住ではなくても、結局そういった施策というのはお互いにリンクをしている。定住人口だけ増えて、リンケージ人口が減るということはまず考えられないし、その逆もないということからすれば、どれだけ魅力的な山梨を創り出すかというところが、おそらく両方を底上げしていくこと

になるのだろうと思うし、少し俗っぽい言い方をすると、そこには必ずお金が落ちていくので、それをまた有効に使うこともできる。そういうことから考えると、やはりこの2つをうまくリンクさせて施策の中に盛り込んでいくというのが一番いいやり方なのだろうと思う。

資料の展望編の右側はいいのだが、左側の目指すべき将来の方向のところに項目が5つあるが、これをどこまで具体的なものにして進められるかが問題だと思う。ここがしっかり組み立てられないと、この定住人口あるいはリンケージ人口という考え方も上には伸びていかないだろうと思う。また、前回も申し上げたが、過去から人口減少という問題は山梨の中にもあって、いろいろな施策を打ってきているのだが、なかなかそれが実っていないというのが、失礼な言い方ではあるが現実問題だろうと思う中で、その5つの項目をどのように視点を変えてしっかりとやっていくのかということと早急に具現化していかなければいけないと思う。先ほども話が出ていたように、日本全体の人口が減っていく中で、山梨県だけが別のカーブで上に上がっていくというのはまず考えられない状況であるが、山梨県に住んでいる人も、山梨県に来られる人も、山梨県の魅力を十二分に分かっていたら、その上で定住とリンケージという考え方で具体的な施策を進めていくということにならざるを得ないかなというのが私の個人の見解である。この後予定があり、中座をしてしまう関係もあるので、少し先走った意見になったかもしれないが、ご容赦いただきたい。

(松谷知事政策局長)

大変重要な意見だと思う。私どもも目指すべき将来の方向、この5本の柱でいかに施策を進めていくかということが重要だと思っており、それについては先ほど室長から説明したが、この人口ビジョンとのセットで、総合戦略という5年間の実施計画、アクションプランを同時に検討している。こちらについては、年内に策定する予定であるが、その中で今いただいた意見を十分勘案して作成して参りたいと考えている。

(飯野委員)

萩原委員がおっしゃったように定住人口とリンケージ人口という形で進めていくという考え方には、私も賛成したいが、今日示されたこの人口ビジョン(案)は、県民がこれまで抱いていた100万人都市やまなしを目指すことに対する受け止め方とかなり乖離があるのではないかなと思う。

定住人口が減っていくのはやむを得ないことだということを前提にした人口ビジョン(案)なのだが、おそらく多くの県民は、定住人口を増やしていくのではなかったのかと感ぜられる方が多いのではないかなと思う。100万人都市への挑戦は、非常にハードルが高く、故にこれを目指すとするれば、県民が納得をして一丸となって取り組みを進めなくてはいけないと思う。そのためには、県民が納得するということが非常に大事だと思うのだが、この人口ビジョン(案)を見せた時、これまで説明を受け、感じていたものと、もしその内容が違ふとすれば、何が違うのか、なぜ変える必要があったのかということとをまず真摯に説明する必要があるのではないかなと思う。そうしなければ、県民は不信感を抱き、気持ちが萎えてしまうのではないかなということが心配。これが1点目である。

その上で、この人口ビジョン(案)の中身なのだが、定住人口が減っていくことを前提にしているが、減り続けている現在84万人弱の定住人口を、少なくとも維持するぐらいの意気込みが必要ではないかなと思う。

前回の会議で、定住人口が減っている原因について、自然減と社会減の二つがあり、その中でもとりわけ若い人たちの県外流出が非常に大きな原因であるとの説明があっ

た。その中で私は、若い人たちが県外に出ていかないようにするための施策が最優先課題だと考えており、若い人たちが山梨県に愛着を持ち、山梨県を支えていこうと思って県内に留まってくれるような、雇用の創出も含めた取り組みこそ重要であると思っているが、定住人口が減ってもやむを得ないとなると、そうした取り組みへの力の入れ方にブレーキがかかるのではと心配になる。

それからもう一つ、人口ビジョン（案）の中でよく分からないのが、このリンクージ人口という考え方である。非常にあいまいで分かりにくいと思う。この例の中に、二地域居住人口、県出身者の帰郷人口、旅行者と3つのパターンの説明があるのだが、二地域居住については山梨にも住んでいる方なので、まあ人口と言われればそうだなとも思う。前回進藤委員からも2つ住居を持って行き来している方のご紹介があったが、このような二地域居住の方については、そういう考え方もあるかと思うが、県人会員や旅行者までも含めてしまうと、今でさえ100万人を超えているのではないかと思う方が出てしまうのではないかと心配である。例えば、県人会員の中には経済界で活躍している方も多いと思う。私としては、県外で活躍する山梨出身の企業経営者の方に、本社機能や研究施設を山梨に移してもらって、若者が活躍できる雇用の場を創り、ふるさと山梨を元気にするために、ご協力いただきたいと考えているが、そうした会員への働きかけが消極的になったりしないか、心配する。

人口施策は大変難しく、減少している人口を増やすのは、非常にハードルが高い。今回の人口ビジョン（案）は、その難しさを踏まえた現実的な姿なのだろうと思う。ただし、ハードルを下げたとか、後ずさりしてしまったという印象を県民に持たれてしまえば、県民一体となった運動の勢いが止まってしまう。そうならないよう、県民に対して丁寧で真摯な説明をすることが、今の時点では最も大事なことだと思う。

（木田委員）

これは分析値だと思うので、同じ分析は他の地方都市でもできると思う。他の地方都市と比べて、山梨にしかない優位点については、この中に書かれていないのだが、やはり私は山梨県というのは、東京に隣接しているということが最大の優位点だと捉えている。具体策が今後出てくるとは思うが、東京のベッドタウンとしての山梨の位置付けというところ、今上野原やその辺りはかなり東京のベッドタウンになっていると思うが、交通網などがもう少し発展し、甲府盆地の方もベッドタウンになることも可能であれば、この空気がきれいで水もおいしい、これだけのロケーションがある所で生活ができて、東京で仕事ができるといった魅力を持ったところは山梨県だけだと思うので、ぜひそういったＩターンを含めた、山梨県で働くということだけに限らず、東京で働く人たちの人口というものを取り入れていくような考え方も取り入れていくのがいいのではないかと思う。

（加藤委員）

今日の人口ビジョン（案）の概要では、分析編と展望編とに分かれているわけであるが、展望編にあるように45年後の人口はこういうふうには減りますと、パターン1、2、3とある。もう一つ、この統計を出す上でアンケートを取られており、将来結婚をする人、既婚者のものも取ってあるが、結果を見ると現実的なことを言っていると思う。25から30ぐらいで結婚し、子どもも2人あるいは3人つくりたいという人もいる。ただ問題は、ではどこに住むかということになると、やはり山梨にはない職業あるいは会社、こういったところを目指すし、大学に行くにしてももっと他を知りたいとなる。こういう願望は当然あって当たり前だと思う。

ここで問題は、他の委員からも出ているが、リンケージ人口というものをに入れてしまったので話がぼやけてきている点である。なぜぼやけているかということ、努力目標に対し、どういう施策をやって若者に残ってもらう魅力をつくるのか、その中で家庭を持ち、子どもを育て教育をして、そして次の人生設計があるのだと思うが、それに向けて先ほども話があったように、山梨は東京に隣接し、首都圏の一部という形で、これだけの自然環境を持っている所はなかなかない。だからそれを訴えて、ここに居住してもらうような施策の中でいろいろな対策もやる、お金もかけるということの中で増やしていくのが定住人口の話である。山梨ではなかなかそこまでの給料がもらえる環境にないとか、もっと自分を突出させたいとか、いろいろな願望が若い人にはあるわけである。そのような中で、山梨県の特徴をもっと県なり市町村がPRする必要があると思う。山梨の特徴というのは、やはり農家で共稼ぎ、あるいは農業もやって足しになるなどその世帯所得なのである。それと、東京で一人就職して住宅を造り、所帯を持っていくこととの年間支出というのはおそらくおのずと違って来る。そんなに誰もが出世するわけではない。若いうちは皆願望があるにしても、そこをもっとPRする必要はある。世帯でこれだけの自然環境の中でゆとりの生活もできますというようなことをもっとPRし、肩を押していき、いずれにしても出生率を高めて、山梨にいてもらう率を上げないと人口は増えない。そのことも限界はあるが、60歳以上になって戻ってくるという社会増は一部ではあるだろうが、この問題は山梨の中で働いたということではなくて、余生をここに求めるというような部分でもあるので、その辺はやはりトータル的にものを考えて、施策を立てるということで定住人口の問題がある。

ところが、リンケージ人口ということになると、他の委員からも話があったが、これは別に悪いことではないし、いいことだと思うが、努力目標としてのものからいくとそこは区別する必要があるのではないかと思う。トータル的にこうだというのは結果的に経済であり、そういう人口もあるという山梨の特性の中でやればいいわけである。だから、そこをもう少し分かりやすくしていただかないと、おそらく県のやることと、人を抱えている市町村ではまた分かれるわけである。市町村の努力目標はどうなるのか、こういう概念が伝えられた時に混乱するような気がする。

(松谷知事政策局長)

様々なご意見をいただいたが、定住人口の推計については、先ほども室長から申し上げたが、国の考え方に準拠する形で推計をしたものであり、定住人口は今の現時点ではこういう推計ができるとしたものである。それに対して、どういう努力をしていくかということが、目指すべき将来の方向であり、定住化を目指し、将来の方向でいろいろな施策をやっていく。そういう形で定住化について目指していくという方向は変わらない。

さらに加えて、定住では括れない時代になっているので、リンケージという繋がり、交流人口の一種と考えているが、もう少し繋がり深い人たち、ふるさとに愛着を持っている人たちが山梨を頻りに訪れていただく、ある意味二地域居住と似ているところがあるが、例えば山梨県出身で東京に住んでいる方が、山梨で過ごす日が次第に増えていくと、だんだんやはり親の所に帰ろうとか、山梨に由来があるからとか、山梨が好きだから住んでみようとか、そういう定住化を目指すという点からこのリンケージ人口というものを提案させていただいている。委員が仰るとおり、少し分かりにくいという意見もあるので、機会を通じて県民の皆さんに分かるように、丁寧に説明をしていきたいと考えている。

それから、先ほど廣瀬委員からお尋ねがあったふるさと納税の額と件数について、

今資料が届いたが、昨年は664件、2千万円余り、今年は8月までの5ヶ月間で730件、1千万円余りと増加傾向になっている。

(角南委員)

先ほど飯野委員や加藤委員が指摘されたように、やはりこれはビジョンであるので、斬新さと、将来的に何か期待の持てるような見え方というのは非常に重要であると思う。リンケージ人口を、山梨県の特徴として、これをターゲットにするというのは、非常に重要なポイントでいいのだが、見え方としては、それが定住人口に乗かって、ただプラスになっているという見え方であるので、重要なのはこのリンケージ人口に係数をかけて、それがどれくらい定住人口に変わっていくのかということである。たぶんこれは、加藤委員が先ほど少し目標として見えにくいと仰るところのポイントになるのだと思う。この定住人口の推計は、国の推計に基づいた形でのものであるが、それでもパターン3というのは、かなりの努力をしないと厳しいと思うが、それプラス山梨県の特徴として、このリンケージ人口をターゲットにする。その中で、ある程度の係数をかけて、リンケージ人口が定住人口に変わる部分を上乘せして、最低でも現時点の人口を維持する。現時点より下がっているというのは、どうもビジョンとして大丈夫かと我々も心配なものがあるので、最低でもそういうところはあってもいいと思う。つまり、ここで言うと、リンケージ人口かける係数で定住人口にコンバートしていく、変えていく部分を見せるというのも、人口推計をやっているわけではないので、ビジョンなので必要かと思う。県民の方には、とにかくそういうことを見せていかないといけないということだと思う。

それからもう一つ、これは飯野委員が仰ったのだが、とにかくリンケージ人口をターゲットにするにしても、若い人が山梨県に留まらないで出ていく状況の中で、このことへの対策がない中では、よそから来て山梨に住んでほしいというのは、なかなか現実的に難しいと思う。まずは今回のアンケートで示された中で、特に就職に関する環境について、徹底的に斬新な形でやっていく必要があると思う。

一つは、やはり若い人、特に女性の方がおもしろい仕事がしたいと答えているが、このことは将来的に非常に有望と思う。従って、この山梨の自然環境、どこに行ってもWi-Fiが繋がって、新しい発想でビジネスができて、ここおもしろいなということでSNSで写したり、フェイスブックで出したりとなっていて、そこから何か繋がる中でビジネスが生まれるかもしれない。こういうことができるような環境整備をぜひ県が主導してやっていく。とにかくITにおいては、絶対に東京で働いている環境以上のものを山梨で実現するということが必要だと思うので、その仕事、就職の環境、それから起業環境について、非常に斬新なものを目指していく。もしかしたら、山梨で起業したいというリンケージ人口が定住人口に変わっていく。そこも同じように動きが出てくるのかなと思うので、このところはその見え方と目指すべき将来の方向のところをしっかりとして書いていただきたいと思う。

(渡辺委員)

2点ほどお聞きしたい。少し分からないのだが、このA3の図の中で、富士山の絵が描いてあるが、これは下が青色でリンケージ人口、上が定住人口となっているが、下の図を見ると75万人と書いてある所の色が青色になっている。逆になるのかと少し疑問になった。

もう一つ、今皆さんから話があったリンケージ人口、この言葉は山梨県で初めて使ったと思うが、全国的にそういう言葉を使っているのかについて聞きたい。山梨県だけでこれを使うということならば、人口問題においてこのリンケージ人口ということ

が果たしていいのかということも、やはり詰めてから使った方がいいのではないかと思う。

(松谷知事政策局長)

リンケージ人口については、先ほど私の方から少し説明させていただいたが、いわゆる定住人口と言われるものではなく、一般的に交流人口と言われているものの一種であると思っている。山梨らしい特徴というか、先ほど言ったように東京圏に近いとか、県人の方々が首都圏で非常に活躍されているとか、山梨県のファンが多いとかそういうところに着目して、繋がりということで、リンケージは繋がりという意味だが、リンケージ人口という名称を使っている。

そういうことで、全国的にどうかということについては調べたことはないが、そういう考え方をやっていたり、交流というようなことに着目してやるという発想があると思うが、このリンケージという言葉を入力に付けたのは、本県が初めてではないかと、調べた上ではないが、そのように思っている。

(新井副知事)

今回のビジョンについて、そもそも論に戻るが、若干補足をさせていただきたい。

今回、「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」ということで、各県、各市町村がつくるものは、夢のようなビジョンを描いてくださいという意図ではないと思っている。これは基本的に現実を直視した上で、この期間、この2030年、40年、50年といった中で、パラダイムをどうシフトしていくかということをご議論いただく。基本的に、産学官のいろいろな方に集まっていただき、市町村でも住民の話し合いを繰り返すというパラダイムシフトのための会議というふうを受け止めている。

この人口ビジョンについても、パターン1, 2, 3にあるが、出生率それから移動の実態について、数字を入れ替えればいろいろなものが描ける。しかしながら、これはできるだけ現実的なものにしていくというのが、今回の人口ビジョンの出発点だというふうに思っている。その上で、何の努力ができるのか、何をしていけるものかということが、今回の総合計画の中で一番重要になってくると思う。

今、委員の方からご指摘があったとおり問題は本当に複雑で、まず若い方々がどうやって山梨県において仕事を見つけられるかということが一番大きな課題だと思う。山梨で仕事を見つけていただき、それから男女ともに子育てをしていただく。さらには、首都圏に近いという特性を生かして、今回「共生・連携人口」という項目を入れたが、これがまさに山梨県の大きな特徴になってくると思っている。他の県にないのかというお尋ねもあったが、これが山梨らしさとして私どもがこれから施策を重点的にやっていく分野だと思っている。その中で、二地域居住、これは別荘とかクラインガルテンといったある程度の年齢の方のみだけではなく、山梨で起業していただく方、まさに起業施策もこれから充実させていくことが必要になってくると思っている。そういうことであるので、このビジョンについてはまず現実的なものを見た上で、何ができるのか、本日各委員の皆様からご提案があったように、何をしていくべきかということこれから県民の皆様方と話し合っ、気持ちを一つにしていくというのが重要と思っており、本日このような案を提示させていただいたところである。

(牛奥委員)

この資料にあるいろいろなデータを見て感じたことを意見として申し上げる。

まず、これから30年、50年後の人口の推移と高齢化の波が急激に訪れるということはよく理解できた。そしてこの動向は山梨県のみならず、日本全体にも言えるこ

とではないかと想像している。

2つ目としては、自然増減のグラフから2000年以後の死亡数より出生数が下回っているということであり、それを考えるとやはり出生を促す教育が根本には必要ではないかと思うところである。

それから3つ目としては、今リンケージ人口という話が出て、山梨との繋がりをキーワードとした新しい人口の概念を謳っているが、これをもって山梨の人口と言うには少々無理があるように思われる。これが日本全体の、また山梨の人口の歯止めになるということに繋がるだろうかと思っていた。しかしまた、今副知事からいろいろ今後のビジョンに対する考え方、方向性の説明をうかがい、少しこの点については理解し、そしてこの考え方を取り入れることへの思いもいたしたところである。

それからもう一つは、就職のための企業の誘致、あるいは山梨県の魅力、地場産業への理解、子育て支援など、青少年に向けての様々な取り組みが計画されていると思うが、加えて子どもを産み、育て、次世代につなぐ大切さ、昨今は女性が仕事に就くことが大変多いわけだが、仕事を持つ大切さと同時に、家族を作り、親となることにより、人間として幾重にも成長していくことへの憧れというか教育も必要ではないかと感じている。

それから現代社会では若い人が都会に出るという傾向だが、今の時代は交通の発達それからネットワーク等の発達を考えると、必ずしも都会で生活しなくても、この山梨で生活しながらでも幾らでも繋がりを持つ社会参加ができるのではないかと思う。そのようなことを若い世代に伝え、意識改革を行っていくことも一つの資産ではないかと思う。本当に底辺のことだが、一県民としてそのようななことを感じているのでよろしくお願ひしたい。

(谷口委員)

定住人口、交流人口、それぞれについて申し上げさせていただきたい。

まず定住人口であるが、若い方々にどうやって県内で就職してもらうか、そこがやはり決定的に大事だろうと思う。そういう意味では、今回大学生へのアンケートを行った点は非常に良かったと思うが、そこで明らかになってきたのは、山梨県内に就職しない理由という項目で、山梨県内に希望する就職先がないからという理由を挙げている方々が非常に多いことである。この点が非常に印象的だった。この理由を挙げているのは、山梨県内出身者女性で35%、県外女性だと68%なので、特に女性に対して何とかしていかないといけないと思う。人口ビジョンには5つの目指すべき将来の方向が書かれているが、これからまさにその点を具体的にどう対応していくかが一番大事だと思っている。

先程のアンケートでは、就職する際に重視するポイントについても質問されているが、残念ながらその回答結果からは、具体的に現在の就職先がどうして希望に合わないのかということが見えてこないの、いろいろなやり方があると思うのだが、その背景などを掘り下げてもらい、今後の企業誘致活動などに活かしていくことが大事だと思う。

次に交流人口であるが、人口へのカウムの仕方はいろいろあると思うが、特に先ほどあった山梨県経済への影響ということを見ると、多くの旅行者の方にどれだけ県内に留まっただいて消費をしていただくかということが大事だと思う。その意味では、先ほどカウムの仕方としては宿泊される方だけというような話もあったが、日帰りであったとしてもどれだけお金を使っただけかが大事である。観光地のエリア間の移動手段がどうか、観光客の方々が来られた際に訪れる飲食店や物販店がそれぞれのエリアごとにちゃんとあるのかどうか、いろいろな商品やサービスの開発が

エリアごとにどうなっているのかなど、そういったところを検討して、旅行者にしっかりとお金を使っていただくようにすることが大事だと思う。

(進藤委員)

結論から申し上げますと、今回の人口ビジョンについては、私の個人的な考え方も十分反映していただいているということで賛成している。人口を増やすということ以前の問題として、これから人口減少社会に入っていく時に、いかにこの山梨県を活性化させるか、山梨の経済を活性化させるかということが眼目だと思う。そういう中で、当然のこととして定住人口を増加させるためのいろいろな努力をしていくことが大切なのだが、先ほど副知事も仰っていたように、やはり現実を見ていかなければならない。

現在、毎年4千人、5千人と人口が減少している中で、その倍以上の人がやはり山梨に移り住んでこないと人口の増加には繋がらないと思う。そういう意味で言うと、人口が減少していくのが避けられないこの時代の中で、いかに経済を活性化させていくか、山梨県を活性化させていくかということを考えた時に、山梨に来てお金を落としてくれる人たちをどのように増やしていくかが一番大事だと思う。そういう意味で、リンケージ人口の定義はいろいろあると思うが、少なくとも定住者以外の人たちも、山梨の経済を活性化させるために貢献してくれている人口としてカウントしていくことは、非常にいいのではないかなと思う。

余談だが、先ほど渡辺委員からリンケージというのは他の自治体でも使っているかという話があったが、山梨県人会連合会の会長をされている弦間さんが、4年ぐらい前からリンケージ200構想というのを打ち出している。これは、山梨県民80万人と、山梨から首都圏に出て行っている関係者120万人を足した200万人で山梨を活性化させましょうという構想だが、そのような意味で言うと、リンケージ人口という定義付け、ネーミングは山梨県の人口増加策にとってかなりインパクトがあるのではないかなと思う。

それから別の問題として、若者が県内に留まる策ということであるが、学生を県内に留めておくのは極めて無理な話だと思う。山梨には国立大学、私立大学、県立大学があるが、その定員の中で県内の学生を全部吸収するということは不可能な話であり、当然東京であるとか京都であるとか、県外の大学に行く。こういう人たちをどうやって山梨に戻させるのかということをややはり考えていく必要があるのではないかな。そのための一番重要なポイントが、先ほどから話が出ているが、雇用の場をどうやって確保していくかということだと思う。

それから、これはまた別の話になるが、実は金曜日、土曜日と富山に行ってきた。そこで、全国展開しているある会社のセミナーに参加したのだが、その冒頭に、その会社の社長さんが「わざわざ遠隔地から皆さんに富山までおいでいただいたのには理由がある。それは富山というところをぜひ皆さんに知っていただきたいからであり、そのためには富山に来ていただかないと意味がない。」と仰っていた。その会議には富山市の副市長であるとか、自治体の方も参加されていたが、その話を聞いて、これは私自身の反省もあるが、やはり我々はもっと山梨というものを外に対してアピールする努力をしていく必要があるのではないかな、今までそこが少し欠けていたのではないかなと思った。従って、これから人口を増加させる、リンケージ人口を含んだ人口を増やしていく中では、まず県民をあげて山梨をもっともっと対外的にアピールする、そういう努力を県も市も、それから企業も、みんながそういう考え方を持って努力をしていく必要があると感じた。

(中込委員)

人口の考え方において、定住人口100万人という話が出て、新聞報道でも言われているが、私は交流人口、ここで言うリンケージ人口を加えた考えを持っていかないと現実的ではないと思う。現実的に、人口がこれだけ減っている中で、山梨県だけが80万人を100万人にすぐできるかと言ったら、無理である。その中で、現実的に先ほども話が出たが、山梨県というものをどうしていったら賑わいというか、そういうものが出るかということを知事は考えていらっしゃると思う。

その中で、先日の新聞にもあったと思うが、やはり自治体としては税収がなければ居住の環境が良くなれないと思う。居住環境の整備をして、その上に立って、観光、私は観光立県だと思っているが、他の県からお客様を呼んで、ぜひリピーターになっていただいて、そういった方にお金を落とさせていただきたい。その中で一つ角南委員も仰っていたが、山梨県に来たらWi-Fiはどこにいても無料だというくらいのは一つアピールしていったらいいかと思う。先日キティちゃんを使った何か企画があったが、そのようなものは非常にインパクトがあると思う。そういったいろいろな楽しい企画を県で企画していただいて、経済的なところから増やしていく。それによって定住人口が減らない状況となり、さらにそこに新しい方が入ってきていただくということだと思う。

新聞報道でいろいろ書かれているが、確かに私の周りでも、県は定住100万人と言っていたではないかという話はある。今すぐどうこうではないが、そういった話というのはやはり丁寧に伝えていく、また報道の方にもしっかり報道していただくことで、県民がみんな理解して、そちらの方向に向かっていく力になると思うので、ぜひその辺を知事にも頑張らせていただきたいと思いますと思う。

(後藤議長)

私からも少しご報告、ご説明をしておきたいと思う。

先ほど進藤委員からもお話をいただいたように、私がシンガポール等で痛切に感じたことは、やはり山梨の全てを知っている方というのは本当に少ない、そのため海外戦略というものも始めなければいけないということである。特に今まで、ワイン関係、日本酒関係、織物関係、ジュエリー関係、農業関係などの皆さんが、ある意味ではそれぞればらばらにいろいろなセールス的なものをしてきたのだが、今回JAの廣瀬会長やワイン業界から木田代表等もご同席していただいて行ってきたが、やはりできるだけまとまってオール山梨で、海外の販路も獲得をしていかなければいけないと痛切に感じた。

そういう意味で、今週末も大阪に農産物のトップセールスという形で行くが、実は関西以西では、修学旅行の方も観光客の方もまだ山梨に訪問したことがないという方がたくさんいると聞いている。移住相談についても、現在東京、首都圏中心であるものを、今年度から中京圏も含めて関西方面にもできるだけ山梨の良さをPRしている。ただこれを単体で実施していくのは、なかなか財源的にも難しいところがあるので、先ほど冒頭でご報告させていただいたように、中央日本4県知事サミットでもできるだけ共通で、移住希望者の皆さんに対してメッセージを発信していく。4県の中では山梨が絶対一番いいと私は個人的には山梨の代表者なので自信もあるが、そういう4県での活動も通じて、もちろん私だけの力ではできないので、委員の皆さん方のお力を全てお貸しいただきたいと思いますので改めてお願いする。

その前提で、今日はたくさんの意見、厳しい意見もいただいた。実は今日の午前中の記者会見では、先週お騒がせをした件で、私の出馬表明の時の言葉の使い方が違った面についてお詫びを申し上げた。私は昨年11月上旬に立候補表明をし、公約を1

月上旬に発表した。その2カ月間でも、今日ご議論をいただいたように100万という人口は難しいから撤回をしろという意見もたくさんの方からいただいた。ただ私は、人口をやはり増やしていく、それが新しい人口の概念であっても、そこは山梨県民総意の中で、そこに向けて、まず第1ステップを踏んでいく。そして、これから10年後にはリニアも開通し、山梨新駅と品川の間も25分で繋がるし、名古屋とも40分足らずで繋がる。そういうものは、まだこの定住人口やリンケージ人口の推計には、私の承知している限り入っていないと思っている。また、アンケートがまとまったのもつい先だったのことであるので、全ての課題を解決して、目指すべき将来の方向というものまで踏み込んで今回は整理をしていない。いろいろな手続きの中で、この人口ビジョンについては9月中にまとめ、前回のこの会議でもご報告したように12月中に人口ビジョンに基づく総合戦略を策定する。併せて、この人口ビジョンだけではない私の117のあらゆる公約も含めた総合計画について、今総合計画を含めて39の計画の策定、見直しというものをしているので、それが大きくまとまるのが年内であり、この将来の方向をもう少し細かく具体的にお示しができるのが12月となる。このことは7月の第1回目の会合の中でも委員の皆様にもお話しをしたとおりである。

従って、先ほども機械電子業界の代表でもある加藤委員からもお示しいただいたように、当然のことながら企業立地の優位性ということについて、実は一昨日概要を県議会にお示しをしていて、これから県民の皆さん方にも数字も含めてお示しをしていくが、ようやく先週ニーズ調査の結果がある程度まとまった。その中では90社近い企業が現時点での交通網、社会資本の整備のあり方でも山梨に企業立地をしてもいいと答えてくれた。それも5年以内に企業立地してもいいという企業が40社近くあった。この優位性というのは、2年半経つと中部横断自動車道の南部区間が完成するので、静岡との経済的な一体感も今まで以上になる。そういう優位性を全てこの中に盛り込めたわけではないかもしれないし、ただ先ほど新井副知事から補足があったように、あくまでもこの人口ビジョンというものが、国のいろいろな施策の中の連動性や算定式というもの、例えば出生率1.87をもっと上方修正をすれば、ある意味では自然増というものももっと早く実現できるかもしれないが、そこまでの部分はこのビジョンの部分ではなく、これをベースとしてというものと考えている。先ほど飯野委員からもお話があったように、私も定住という言葉は初め使ったが、2ヶ月間多様な意見をいただく中で、公約を正式に発表する際には定住という言葉だけが独り歩きした部分は、私の不徳のいたすところであるし、新しい人口の捉え方というものは、今の時点ではこの半年間、今日は事務局に部局長がいるが、それぞれの部局の今実現可能なかでできるだけ山梨の優位性を示すということを出したものである。先ほども角南委員からお話があったように、黙っていれば45年後50万人になっていくものを、プラス20万人まず持っていく。そして私が100万人と言ったものが、今少なくともこの半年間、県民の皆さん方のやる気と元気を出しているのは私もよく分かっているので、それを下方修正することなく、このリンケージ人口も100万人から125万人という形で、できるだけこの共生・連携人口、リンケージ人口を引っ張ることで、最大では125万人まで人口を確保することが、山梨の経済活動や暮らしというものをより良くしていくと考える。教育関係や子育て環境の充実も含めて、あらゆる施策について、予算の範囲ということはあるかもしれないが、私は全てやりきっていくという覚悟は今でもいささかも変わらない。

そういう意味で、いろいろなご意見は承り、それに対して全て私がどうだということとは座長という立場から差し控えさせていただくが、これをベースにするかどうかについては、後でまた事務局と相談するが、本日いただいた全てのご意見は少なくとも次の段階でご報告できるような形で最終案をまとめていきたい。これは時間の関係で、

今月中にはこの人口ビジョンをまとめて、それから総合計画と人口の総合戦略と、そのような段取りになっている。私もこの職責をいただいている以上、県民の皆さん方の経済、暮らしが少なくとも5年、10年、45年後も含めて、きちっと前に向けていけるようにしていく。

そのためには、みんなでがんばっていこうという共通な目標として山梨人口100万人の挑戦という私の思いは、これからいささかもぶれずにきちっとそして丁寧に説明をしていかなければならないと思う。それには少し時間がかかるかもしれないが、私も先頭になりながら、私が思いを込めて新井さんを副知事をお願いしたのも、それを補佐してもらうためであるし、県庁一丸となって県民の皆さん方にできるだけ丁寧に、そして分かりやすい形でご説明をしていくということでご理解を賜ればありがたいと思う。ぜひそのような形であって、これからイエスと言ってくださいということではない。意見は全て分かっており、先ほど委員からも話しがあった課題を解決していく。出生希望の子ども数が2人、3人という方もたくさんいたので、牛奥委員が仰ったように、この1.87という希望出生率ができるだけ早く上方修正できるような環境づくりというのは、一番の課題であって、既婚者の皆さんやこれから結婚する若い皆さんの気持ちをよくお聞きして進めなければ、その環境づくりはできないと思っている。一番初めにもお話しをした、やはりニーズを踏まえて、そのニーズに合った施策で対応することの大切さは、先ほどもシンガポールでのいろいろな国籍を持った皆さんとお話しをしながら痛切に感じたところであるので、それをこれからのこの取りまとめに活かして参りたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

(廣瀬委員)

今知事から人口問題ビジョンについてのお話しを承った。まだまだこの会議で、人口問題をどうするかという大きな課題について議論をしている時であり、やはり知事が山梨県の知事に立候補する時に、ダイナミック県政という形の中で、人口問題をまず一番の施策として取り上げたわけであるので、県を挙げて今日こうして県庁の幹部が全員揃ってこの人口問題に取り組んでいることに非常に感銘をしたわけである。やはり人口問題は後藤県政にとって本当に基本となる問題であるので、この問題で今知事が言われるようにある程度話がまとまって、その結論が出てきたら、これは予算も必要であるだろうと思う。従って、今まだお金のことに触れる時ではないので触れないが、やはり将来この山梨県の人口をどうしていくのかという形で知事の裁断が下った時には、予算も使いながら県政を推進していくという力強い気持ちで、知事もこの問題について政治の理念と言うか、知事の考えを正しく県民に伝えて実現していくことをよろしくお願ひしたいと思う。

(加藤委員)

自分は機械電子工業会という中にもあって、現実を直視すると実は今、人が足りないぐらいの状況である。安倍総理が手を打ったアベノミクスにより為替が80円、85円となって、120円近くなってきたところであり、このことによって今回帰が一部始まっている。ところが、現実でも人が足りないというぐらいの環境になっている。

それで私がこの会議を通じて話をしたいのは、人口ありきということではなく、いかに知事が提唱しているダイナミックやまなしの中で活力を持たせるかということが一番大事だと思うし、我々の業界からすれば高専という話もいただいている中で、大変これは難しい問題だと思っているが、やはり人材を育てることによって仕事の質、生産、この間も少し話をしたが、質が高まってくれば新しい仕事も取れる。付加価値も上がるとなる。それが、県民が目標として一生懸命やるところの形の中に反映され、

人も増えていくとなるのではないか。人口は結果である。だから、ぜひそういったことを進める政策をいかに実行するかということが一番大事であると思っている。

(後藤議長)

今、産業人材の育成をどうするかという検討会がスタートし、本格的にニーズ調査も含めて並行的に議論をし、できるだけ早く方向性を集約していきたいと思っている。何十年ぶりの試みではあるが、いわゆる産業界と教育界が一堂に会して、今お互いの立場の部分と実現可能な部分の中で議論をしているという報告を受けている。

私も、人口というのは一つの結果であって、ただダイナミックやまなしと今でも掲げ続けているのは、元気がなく、閉塞感がある今の山梨の現状を、今加藤委員が仰ったような全ての業界がということではないかもしれないが、みんな頑張っている人たちが、ワクワクドキドキしながら、やはり山梨に住んでよかったな、住みたいな、仕事したいな、山梨の物はみんな安全だし、いいものだからみんなで外の市場にも売っていこうとなるような、そういう正の循環にしていくことの大切さを自分なりに理解をしている。そういう意味で、先ほど廣瀬委員からお話しをいただいたように、県庁挙げてこの難しい課題に取り組んでいく。またこの人口ビジョンが一つの大きな柱であることは事実であるので、できるだけ県民の皆さんに分かりやすく説明していきたい。そして、なおかつみんなで努力すれば必ず結果が出る、実現できるというものを作り上げていきたいと思うので、ぜひその上で総合計画、そして人口の総合戦略それぞれの柱の中で、その全ての政策に対して総動員をしていくことは難しいかもしれないが、やりきれなければ結果は出ないということで、私も先頭に立ってやることを改めて誓いたい。

本日はいろいろなご議論本当にありがとうございます。たくさんのご意見については、きちっと考えさせていただき、対応していきたいと思う。

それでは次回の開催予定について、事務局のほうから説明を。

(中澤知事政策局政策参事)

ただいま知事から説明があったとおり、次回の会議は、議会に提出する「総合計画」についての説明と、本日委員の皆様にご議論いただいた人口ビジョンを具現化するための計画である「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の山梨版をテーマにご意見をいただきたいと考えている。この総合計画と総合戦略の策定作業の進捗状況にもよるが、概ね10月下旬から11月中旬ぐらいにかけて、次回の会議を開催したいと思っているのでぜひよろしく願います。また皆様には、改めてメールもしくはファックスで日程調整をさせていただきます。

(木田委員)

今回の資料が手元に届いたのが昨日だった。ぜひ次回は検討する時間がもう少しあると意見も出しやすいと思うので、ぜひよろしく願いたい。

(後藤議長)

すみません。配慮させます。

(後藤議長)

以上で本日の議事は全て終了した。議事進行について、委員の皆様方のご協力に感謝を申し上げたい。本当にありがとうございます。

4. 閉会

司会：松谷知事政策局長